

令和2年度 第4回苫小牧市子ども・子育て審議会（書面会議） 委員意見

- 議事（1）令和3年度特定教育・保育施設の確認に係る利用定員の設定について
 （2）子ども・子育て支援事業計画に基づく確保方策の見直しについて

機関名：苫小牧駒澤大学								
氏名：永石 啓高								
意見								
<p>（1）たいせい保育園：利用定員変更：変更事由等：<u>恒常的に利用定員を下回る受入れとなっているため</u></p> <p>下線の記述からすると、将来的には経営難、それに伴った保育サービスの低下も出てくるのではないのでしょうか。</p> <p><u>⇒市がお支払いする運営費は、利用定員が小さくなると子ども1人当たりの補助単価が上がることから、実態に応じた適切な利用定員を設定することで、経営難に陥るリスクや保育サービスの低下は最小限に留められると考えられます。</u></p> <p>（2）令和3年度の認定区分からすれば、3号（0歳児）、（1・2歳児）に利用定員増があるものの、全体的利用定員の趨勢は減少傾向にあるとの判断でよろしいのですよね。合計特殊出生率の低下傾向を觀れば、この3号利用定員（利用者）数は今がピークを迎えていると捉えられるのではないのでしょうか。また、最初の表の受入実績（目標値）の設定も全体として削減傾向にあるように見受けられます。そうすると以下の表の数値を基に、今後の子ども・子育て支援事業の見直し、リニューアルを考えていく必要があるのではないのでしょうか。</p>								
	0歳児				1・2歳児			
	人口	入所希望者数(※)	受入実績	入所待ち児童数	人口	入所希望者数(※)	受入実績	入所待ち児童数
H28	1,391	304	172	132	2,908	729	638	91
H29	1,304 (-87)	339	194	145	2,800 (-108)	756	678	98
H30	1,249 (-55)	420	220	200	2,712 (-88)	859	760	99
R元	1,207 (-42)	424	230	194	2,555 (-157)	893	798	95
R2	1,097 (-110)	394	220	174	2,470 (-85)	864	779	85
<p>0歳児人口：H28（1,391）⇒R2（1,097）＝△294</p> <p>1・2歳児人口：H28（2,908）⇒R2（2,470）＝△438</p> <p>⇒<u>第2期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画につきましては、計画の中間年度である令和4年度に中間見直しを予定しておりますので、ご指摘の内容などを踏まえて、計画上の各数値を見直したいと考えております。</u></p>								

3号認定子どもの人口推移に関しては、0歳児人口、1・2歳児人口ともに減少し続けている。一方入所希望者数は多少の振幅は見られるものの増加を示している。待機児童問題を軽減・解消する対応として、受入実績を拡大してきているが、0歳児、1・2歳児の人口動態の減少化の推移を考える場合、説明資料の「4 第2期子ども・子育て支援事業計画の目標を達成するための方策について」も関係するところだと思われるが、ハード面での対策においては、民間移譲の問題も含めて、施設の管理・運用のあり方については、単に待機児童問題解消の観点からだけでなく、保育施設の健全な経営環境の課題をも含めて、見直す時期に来ているのではないと思われる。民間の場合は健全経営のみならず、利潤をも視野に入れた経営方針が採られざるを得ず、適正保育の維持・管理が危険に晒される可能性も否定できないと思われる。認可定員と利用定員との関係（認可定員≧利用定員）の問題もあり、持続的良好的な保育環境の維持の為には、過渡期的な対応措置として、限界状態なのかも知れませんが、ソフト面での対策の充実を図り安定的な保育環境の維持を図っていくことが必要であろうと推察されます。

またこうした施策の検討は、出生児数・幼児・児童の減少化傾向からだけからではなく（景気動向に左右されることが大きいとは思いますが）、働き方改革、テレワークの拡大等により、子どもとの有機的な接触の機会も拡大すると思われるので、この子どもの著しい、精神的・心理的な成長期に、愛情深く我が子を見守る両親の下での養育の機会を増やしてゆくことが、未来社会をつくる子供に対する教育政策としては、より重要な政策課題となっているものと思われる。こころの安定を欠く児童たちは、小学校の児童たちを見ている対人行動、社会化過程においても障害を抱えているように見受けられます。

入所希望者増の主な要因として、H29年からの0～2歳児の保育料一部無償化（道政策）が挙げられておりますが、無償だから預けるといように流されている方もいらっしゃるのでしょうか。生活の為にどうしても預かってもらわなければならないという方には非常に失礼な疑問かも知れませんが、親としての子どもへの「愛」（愛しみ）や「責任」、我が子の「人格を育てる」・「人格形成にかかわる」という観点に立てば、生活者として子育てに奮闘する親御さんも含めて、出来るだけ親子の濃密な時間を温かい家庭の中で育ていくことが必要なことではないでしょうか。

技術革新で、「ワーク・ライフ・バランス」の変容が可能になりつつあるのであれば、それを道具として用いる意識の変革を施策の中に盛り込んで、人間形成の養育環境を整えて行けば教育の理想に近づくように思われます。

機関名：北海道私立幼稚園協会苫小牧・日高支部

氏名：青山 邦子

意見

資料について確認いたしました。特別に意見はありません。

利用者、保育施設、苫小牧市にとって令和6年度の目標を達成することが、よりよい未来に向かうことを期待いたします。

機関名：苫小牧市法人保育園協議会
氏名：遠藤 明代
意見 <p>ハード面での対策について、小規模保育施設が令和6年度には15園となるとなっておりますが、小規模保育施設を増設するのではなく、認定こども園となっている施設に0～2歳の受け入れへの理解を積極的に求め、既存施設の有効利用を優先させるべきであると思います。そのことが小規模保育施設での3歳児卒園受け入れ問題の解決となり、移行がスムーズになるのではないのでしょうか。</p> <p>また、小規模保育施設の増加は0歳～2歳児受け入れ調整に今後混乱を招くのではないかと思います。保育園の運営では0歳～2歳児数の確保が安定経営の鍵ともなってきます。</p> <p>2年程前から審議にあがってくる利用定員の削減の問題ですが、理由が利用者数の減少とありますが、本当は保育者数の確保が困難であるため受け入れ数も制限しているのが真意なのではないのでしょうか。保育者数の確保を実現させていくために、市と連携して考えなくてはならないテーマではないのでしょうか。</p>

機関名：苫小牧市子ども会育成連絡協議会
氏名：佐藤 守
意見 <p>(1)については、特にありません。</p> <p>(2)資料2の「4 第2期子ども・子育て支援事業計画の目標を達成するための方策について」に、「ソフト面での対策（各施設での保育士の確保を前提）」とありますが、今までと違った確保のための方策があれば教えてください。</p> <p><u>⇒今までと違った確保のための方策はありませんが、引き続き潜在保育士に対する就職促進のための研修や、合同職場説明会を継続して実施していくことで、保育士の確保に努めたいと考えております。</u></p> <p>【他市の例】①保育士の子どもの保育園優先入所 ②市町村の圏域を超えた保育所の利用調整 ③保育士の勤務している保育所へ自分の子どもの入所</p> <p>苫小牧市では、①②③を実施されていますか。よろしく申し上げます。</p> <p><u>⇒①：苫小牧市でも実施しています。</u></p> <p><u>②：申込者の希望事由により、他市町村へ受入れをお願いする場合がありますが、通常の調整とは別にしています。</u></p> <p><u>③：苫小牧市では制限していませんので、各施設の判断に任せています。</u></p>

機関名：苫小牧市PTA連合会
氏名：鈴木 亜沙美
意見 異議ありません。

機関名：苫小牧市小学校長会
氏名：毛利 毅
意見 (1) 特になし（同意します） (2) 特になし（同意します） (その他) 保育士さんを確保し、安全面で問題が生じないよう支援をお願いします。

機関名：苫小牧市医師会
氏名：小原 敏生
意見 資料については理解しました。保育士の確保について、コロナ禍で進学の難しさなどがあります。奨学金制度などを整えて地元で就職させるなどの政策はありますか。 ⇒苫小牧市では、保育士の確保を目的とした奨学金制度等の政策はありません。

機関名：苫小牧市民生委員児童委員協議会
氏名：山岸 陽子
意見 問題はないと思います。

機関名：苫小牧市女性団体連絡協議会
氏名：北岸 由利子
意見 喫緊の課題である3歳未満児の待機解消を計画どおりに実施できるようあらゆる施策を講じてほしい。

機関名：苫小牧市ファミリー・サポート・センター
氏名：篠田 利恵
意見 特に意見はありません。

機関名：苫小牧商工会議所
氏名：末松 仁
<p>意見</p> <p>施設側にとっては、収入に関しては料金収入、補助金収入等と法律等を含む制度上の遵守事項などの縛りがある中、支出に関しては施設の初期・追加投資、施設運営費、人件費等の固定費の割合が極めて大きいため、収支バランスを均衡させていかなければ経営は成り立たない。</p> <p>そのようなことを考えると、時代や利用者のニーズを叶えるため、よりフレキシブルな施策を実施する余地は少ないものとする。子どもたちの育成を考えると、リスクを最小限に抑え、大胆な保育目標や子育て環境の達成というよりも、現状、安全で安定的な経営を目指すことが第一目標となることは、止むを得ないものと思われる。</p> <p>しかしながら、現実を見ると子どもたちの環境は、様々な社会環境の変化や保護者の生活レベル、所得の格差、家族の構成などの多様性を増す状況の中で、決してよい状況ではないことから、よりよい環境を社会は求めているものと感じている。</p> <p>100%のベストは求めないものの、ともすれば虐待など極端な事案がクローズアップされがちだが、コロナ禍や貧困も含め子どもたちにとってもう少し優しくて緩い環境を提供できないものか、もう少し制度上の運用に糊代というか、白黒つけるよりももっとグラデーションの掛かった余裕ある制度設計はできないものかと思う。現実に入所待ちの子どもたちが多く存在している訳だし、その一方で苫小牧地域は働く場が多くあって慢性的な人手不足を抱えながら、少子高齢化の中で人口減少の真ただ中にあることを考えると、住みよいまち苫小牧をよりアピールして、このまちで多くの人が安心して暮らしていくためにも、市民の理解を得ながら行政としてもう少し踏み込んだ制度設計の可能性を模索できないものかと感じる。</p>

機関名：連合北海道苫小牧地区連合
氏名：山上 晃
意見 議事に対して以下の通り意見を提出いたします (1) ①たいせい保育園の利用定員変更（案）について賛成いたします。 ②需要が減少していることへの対応と理解いたします。定員の減少に伴う保育士さんの全体運営への充実を期待します。 (2) ①資料２・説明資料を拝見していて、課題はありつつも次年度には1・2歳児の目標とする受入枠の確保、同様に3年後の令和6年度には0歳児の受入枠確保となっており、目標達成に向けた方策について賛成いたします。 ②特に気になるのは、3号（0歳児）に対する課題です。昨年10月に生まれた私の孫が双子でしたが、このようなコロナ禍のなかで両親への負担が大きく、私たち祖父母は可能限りのサポートしておりますが大変です。嫁は現在専業主婦ですが働く事になれば育児を保育士さんをお願いすることになります。0歳児では保育士さん1人が保育できる子どもの数が3人とありますが、ギリギリの限界点だと考えます。保育士さんが不足しているとおっしゃられているように子どもたちの安全面と保育士さんの稼働面からも、何らかのサポートをしていく必要があると思います。 ③担当されている皆さんを中心に解決策を今後も議論していきたいと考えております。

機関名：苫小牧青年会議所
氏名：佐々木 隆幸
意見 意見はなしです。

機関名：公募委員
氏名：藤崎 詠子
意見 意見は特にありません。保育施設の皆様に感謝いたします。